

# 地震・豪雨のため池の災害情報共有のための ため池防災支援システム

## 研究のポイント

本研究では、豪雨・地震時のため池決壊と下流被害の危険度をリアルタイムで予測・表示し、それらの被害を防止するための情報を提供する「ため池防災支援システム」を開発します。

## 研究の背景

- 東日本大震災では、地震発生後30分で藤沼ため池が決壊して8名の犠牲者が発生しました。
- 災害発生直後の避難対策や情報伝達の混乱から支援対策に遅れが生じました。

## ため池防災システムの機能

- 地震発生から30分以内に決壊予測を表示します。
- 豪雨時には最長で1週間後の貯水位予測を行います。6時間後までの精度の高い決壊予測が可能です。
- ハザードマップの作成・閲覧ができます。
- 防災科学研究所のシステムと接続して、道路通行止め情報や避難所情報を表示します。
- スマホのアプリで情報を閲覧できます。災害時のため池の被害を現地で入力することにより、国、自治体、ため池管理者の間で即座に情報共有が可能です。

## 仕様

- ID・パスワードを持っていれば、PCやスマホ等で使用できます。
- ID・パスワードは農研機構から国・自治体・ため池管理者等のため池防災担当者に発行できます。

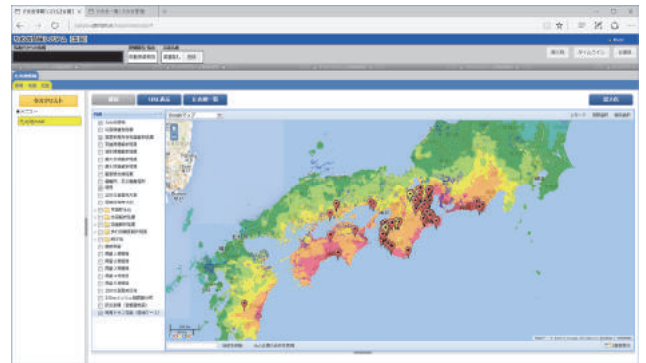


図1 南海トラフ地震を想定した決壊予測

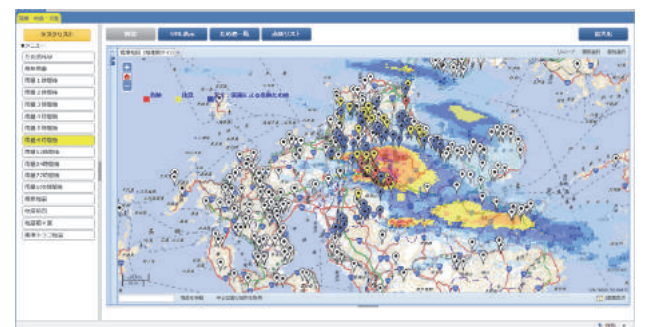


図2 九州北部豪雨(2017年7月)の決壊予測



図3 ハザードマップの表示

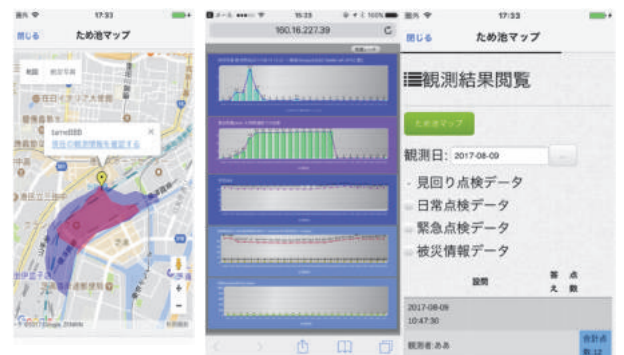


図4 スマホアプリ(閲覧・被害報告)